

障害者が地域で生活していくために必要な連携

資料5 - 3

課 題	解 決 策 の 提 案	具 体 的 な 取 組 み
<p>支援機関やその事業内容が当事者に知られていない</p> <p>支援に対して継続的な取組みがない</p>	<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> 当事者への福祉情報の提供 当事者に福祉サービス利用のメリットを伝える 必要な準備・環境を整える チームアプローチすることを重視する 	<p>1 信頼関係をつくる取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 相談支援事業所・相談員の名前と顔が分かるようにする 現場が専門機関を把握しておく 相談できる事例をいろいろな機会を通して紹介する 色々な機会 広報誌、事例討議の場、学校や各関係機関訪問 職員の問題解決能力の向上 相談支援事業につなげるようにする 本人のセルフマネジメントの上で足りない部分をアドバイスする 本人とチームによる定期的な点検・確認の取組みをする <p>2 環境整備の取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 当事者にとってのアクセスの良さの確保 精神の相談支援機関のマンパワーの増員や支援センターの増設 保健センターを精神保健に関する初期相談の窓口 地域の事業所や福祉事務所や医療機関等につなぐ 円滑な連携や保健師の負担軽減のために保健センターに精神保健専門相談員を配置する
<p>各支援機関のつながりがない</p> <p>当事者について各支援機関の情報共有がない</p>	<p>現状 < 支援ネットワークを構築の動きがある > < 個別支援会議の開催がある ></p> <p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援者の動きや顔が見える関係をつくる 取りまとめ役をつくる 役割についての情報提供と共有をする <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>障害者や家族の多様かつ切実なニーズに応えられるサービスを創出していく 基盤作りとなる</p> </div>	<p>関係機関同士で理解する取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な連携先を知っておく 知り合いになる 経験、事例で交流 支援者のそれぞれの役割の把握 意見交換をし客観的な評価を重ねる など <p style="text-align: center;">⇕</p> <ul style="list-style-type: none"> 連絡し合うことで地域の福祉の課題を話し合う 解決策を話し合い、解決策を生み出す取組みをする
<p>当事者同士のつながりが弱い</p>	<p>解決策</p> <ul style="list-style-type: none"> サービス利用ごとに安心して率直に話し合える場をつくる 当事者の話を聞く、話し合い、認め合える関係ができる場を設ける。 当事者間に入りすぎないようにすること？ 支援者の役割を当事者との関わりの中で伝え、本人と一緒に取り組む 	<p>インフォーマルなつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> フリースペースの活用とその場で得た関係を広げていけると良い 話し合える場で得たことを発信受診できるツールを作る